

Local Life

つくりびと
つどう、
おくやまと。

Vol. 
 Nara **Okuyamato**



奈良 奥大和

Local Life

Vol. 
 Nara **Okuyamato**



Nara **Okuyamato**

いにしへの森広がる奥大和で始まる
新たな創造のコミュニティ。
誰かの心と心がつながって
生まれる新しい世界に、
あなたもぜひ触れてみて。



発行元・問合せ：「奥大和移住・定住連携協議会(事務局:奈良県奥大和移住・交流推進室)」 **Local Life**
☎0744-48-3016 〒奈良県橿原市常盤町605-5  Facebook「奥大和移住定住交流センター engawa」  in Nara **Okuyamato**

※このパンフレットは2018年12月に取材をおこない、2019年3月に発行したものです。情報は変更となる場合がございますので、最新の情報や詳細については各施設へお問合せください。



日程：2018年11月8日(木)～11月11日(日)
場所：Dia.Lo.Gue アートスペース
Jalan Kemang Selatan 99a,
Jakarta Selatan

Into
The
Woods 展

才能あふれるクリエイターを奥大和エリアに呼び込むことで地域を盛り上げたい…そんな発想から生まれた「奥大和クリエイティブヴィレッジ構想」。2015年に開業した「オフィスキャンパ東吉野」は、その中心地として注目を集めるシェアオフィスだ。開業以来、移住や地域活性の先端事例としてメディアでも取り上げられ、全国から数多くの視察者や移住希望者が訪れている。2017年に行われた滞在プログラム「DESIGN CAMP @奥大和」では、海外から迎えたデザイナーたちとの交流や協働を実施。その縁がきっかけとなり、2018年には「Into

人が集う場所が生む新たな価値 躍動する奥大和のクリエイティブ。

The Woods展」がインドネシアのジャカルタで開催された。奥大和エリアで活躍する木工デザイナーの作品を展示し、4日間で延べ800人以上の来場者を集め奥大和の名を海外に響かせた。「人が集う場づくり」新たな価値の創造」という構想のコンセプトは奥大和全体に波及し、下北山村の「コワーキング&シェアオフィスの「BYORI」や宇陀市の「奥大和ビルタブルーム」など、「移住者と定住者」や「仕事と暮らし」の垣根を超えた交流の場も続々と生まれている。地域や国境を超えて広がる奥大和ブランドのクリエイティブ。今後の展開が楽しみだ。

①奈良県奥大和地区吉野町の森林から加工された杉材と松材を使用した作品 ②奥大和のクリエイティブと共に、木材のクオリティの高さもアピールした



③地域の木材を使ったオフィスでは、村を盛り上げるための企画が日々話し合われる ④移住者、定住者、村内外の垣根を超えたコミュニティがどんどん広がっている

〒奈良県吉野郡下北山村浦向24-1
☎07468-9-0014
HP <http://shimokitayama-biyori.jp>

下北山
BIYORI



OFFICE
CAMP
東吉野

〒奈良県吉野郡東吉野村小川610-2
☎0746-48-9005
HP <http://officecamp.jp>

⑤「DESIGN CAMP@奥大和」の様子。国、エリア、人種を超えた温かい雰囲気の中で協働や交流が実施された

Okuyamato Creative Village.

撮影場所：奥大和ビル タップルーム
→情報はP14に掲載



01
Creative
efforts.

Okuyamato
Creative
Village.

奥大和から始まる クリエイティブの 新たな胎動。

「奥大和クリエイティブヴィレッジ構想」が産声をあげてから6年。様々な分野のクリエイターが集う場所として全国から注目を集めている、ここ奥大和。広がりを見せるムーブメントの現状と、奥大和で活躍するクリエイターの声をお届けする。

町と家、公と私が
緩やかに融合した空間で
生まれる新たなつながり。

02

Living with Woods.



庭を望む開放的なリビングも、土間を通じてオープンなスペースになっている

シームレスにつながる
住居とサードプレイス。

江戸期の風情が残るこせま
ちで、築180年の古い町家を
改装して暮らす吉村さん。かつ
ては反物屋だったという町家
は、従業員や客、近隣住民が自
由に出入りできる場所だった。
その活気を再現したいと、表通
りから土間、住居スペースに至
る場所までを、公と私の境目の
ないオープンなスペースに設計し
た。自然に生まれる近所さん
や観光客との何気ない会話を
日々楽しんでいるそうだ。

Q 古民家をリノベーションするにあたって工夫した点はありますか？
A 壁や建具を外したり開口を開けたりして分断されていた部屋と部屋を土間や庭を介してつなげました。内と外、新旧が混在しながら多目的土間を緩やかにつなげています。

Q 古民家のオープンになっているスペースはどのような使用方をしていますか？
A インスタレーション（展示空間そのものが場として体験できる芸術作品のこと）や喫茶、打ち合わせ場所などをさまざまに活用されています。

吉村理建築設計事務所

日本の伝統技術や地場の素材と、現代的なデザインを融合し、店舗や住宅、酒蔵等のリノベーションやまちづくりなどを行う一級建築士事務所。

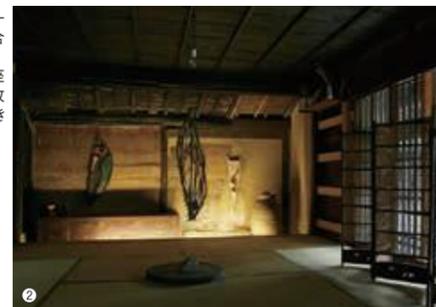
〒奈良県御所市1203
☎0745-62-1353
HP <http://yoshimura-arch.com>

①土間にあるローテーブルでは設計の打ち合わせなども行われる
②多目的な土間と座敷。将来的に増設や改装などアップデートできるように設計されている



吉村理さん、宜子さん

大阪府堺市出身の吉村さん。10年前、妻の宜子さんと東京から御所市に移住。現在は、東京時代より穏やかに過ごすことができているそう。



Furniture & Renovation @Higashi yoshinomura

時代の感性と
住人のニーズにあった
家具&空間づくり。

村の工房に通いながら
家具づくりをスタート。

大学卒業後、飛騨高山の家具メーカーで木工を学んだ中峰さん。一時は木工の仕事から離れていたものの、家具づくりへの情熱が再燃。当時住んでいた兵庫から東吉野村の工房まで通い、オーダー家具の製作を始めた。月に1〜2回ほどの工房通いを4年間ほど続け、2018年3月に東吉野村に移住。村の古民家を自らリノベーションし、ご家族とともに新たな生活をスタートさせている。

Q 東吉野村の工房へ通うようになったきっかけは何ですか？
A 友人が先に東吉野村に移住していたので、彼に工房を紹介してもらいました。現在もその工房を使って家具づくりをしています。

Q ご自宅のリノベーションでこだわったポイントはありますか？
A 古民家を古民家らしくリノベーションするのではなく、床と壁の断熱や土壁をやめて白い壁にしたり、内装を洋風にするなど、時代に合うようにしました。

①奥様をクライアントに見立て、意見を取り入れながら家具づくりや改装を実施 ②ダイニングテーブルや椅子など、中峰さんが作った家具がダイニングに並ぶ



家具製作者 中峰 渉

オーダー家具を中心に家具づくりをする中峰さん。形はもちろん生活スタイルや、依頼者の想いをくみ取った家具づくりを心がけている。
〒奈良県吉野郡東吉野村小栗栖77 ☎090-7759-9630
HP <https://www.instagram.com/wataru830/>



中峰 渉さん

以前は通販カタログの編集の仕事をしていた中峰さん。作り手の視点だけでなく、使う人の視点が得られたことが今に生きているそう。



③普段作っている洋風家具が合うような空間づくりを心がけたリビング ④作業する工房もクリエイターが集うシェアファクトリーにリノベーション中 ⑤シェアファクトリーに併設するカフェスペースは奥様が担当予定

シンプルで飾らない家具 「まっすぐ」なものづくり。

02

Living with Woods.

全ての工程を一貫して製作
細部にこだわる家具づくり。
2015年に下市町で「高野家具」を開業した高野さんの家具づくりは、設計やデザイン、製図、製作まで全ての工程を一人で行うスタイルだ。元グラフィックデザイナーだけあってディテールへのこだわりも強い。作品は直線的でシャープな印象ながらシンプルで飾り気がなく、どんな空間にも違和感なくなじむものばかり。独立して4年、ものづくりの道にゴールはないが、これぞというものを作るためまっすぐに努力する日々だ。

Q 家具職人になつたきっかけを教えてください。

A 妻の妊娠を機に、東京から川崎に家を引っ越したのですが、その時にあらたな家具を自作したことで、立体的なモノづくりは仕事でやっていた平面とはまた違った満足感がありました。

Q 家具づくりのこだわりポイントを教えてください。

A デザインは細かい部分にもこだわっています。図面で決めた寸法も、実際に作ったものを見て、厚さを変えたりしています。



①オリジナルの小物類。直線を活かしたデザインが印象的
②高野さんの個性が存分に発揮されたオリジナルのスツール



たかのたいすけ 高野大輔さん、加織さん
東京、川崎から和歌山を経て下市町に移住した高野さんご夫妻。買い物なども不便がなく、ちょうどいい感じの田舎暮らしが楽しめているそう。

高野家具
食器棚やテーブル、椅子など様々な家具を製作。基本はオーダー家具が中心だが、ティッシュケースなどオリジナルの小物の製作・販売も。
〒奈良県吉野郡下市町広橋(詳細は要問合せ)
☎090-5160-5661
HP <http://takanokagu.com>
MAIL takano@takanokagu.com

お客さまと一緒に、 世界にひとつのオーダー家具。



丸い形と滑らかな曲線がかわいらしいお皿やアクセサリーケース



工房の隣の店舗は2階建て。1階は小物、2階は家具を販売

自分の仕事の結果を、
ダイレクトに感じる喜び。

宇陀市で家具や木工品の工房兼店舗を構える盛谷さん。家電メーカーで電気機器のデザインをしていたが「自分の仕事は何につながっているのかも」と直接的に感じたい」と家具職人の道を志した。退職後、訓練校や家具工房での修業を経て2013年に独立。オーダー家具を中心に製作しているが「可能な限りお客さまの要望を聞いて、一緒に考えて作ります」と盛谷さん。お客さまの反応を感じながら創作を楽しんでいる。



①店舗の外観。元はガソリンスタンドだった建物を改装 ②木材をカットする盛谷さん。設計から販売まで一人で行うが、設計が一番得意なこと ③店舗の内観。木がふんだんに使われた温かい雰囲気



sora sora
主に無垢材を使用したオーダー家具や小物などの木工製品を製作・販売。家具の修理等も対応してくれるそうなので気軽に相談してみてください。
〒奈良県宇陀市榛原萩原
1596-1 ☎0745-96-9700
HP <https://sora-sora.com>

Q お仕事でこだわっていること、大切にしていることを教えてください。

A お客さまが望んでいること、できるだけ応えられるようにしています。例えば、アイアン素材は使ったことがなかったのですが、相談を受けたのでチャレンジしてみたら意外といものができた、なんてことも。予算も含めて気軽に相談してください。

Q 宇陀市に移住してお店を始められたきっかけは何ですか？

A 前の会社の上司が近所でJAZZ喫茶を経営しているのですが、独立の際に物件を探していたところ、今の場所を紹介してくれたのがきっかけです。高山の家具工房まで応援に来てくれたり、オープンの際には相談のつてくれたりと色々お世話になっています。



もりたにかずし 盛谷一志さん
飛騨高山から移住した盛谷さん。宇陀の適度な田舎感が気に入っているそう。自治会の集まりや神社の手伝いなども楽しみながら参加している。

「もくもく身長計」などインテリアにもかわいい玩具がたくさん



①ついつい触れてしまいたくなる愛くるしさ「親子カードスタンド」②13種類の食材をかたどった「たべものひもとおし」は食育にも役立つ③空き店舗を改装した工房兼ギャラリー④日本有効の木材の町だけあって、工房には様々な木材が集まっている



橋元美穂さん

小さいころから絵が好きで、大学や高校でデザインを学んだ橋元さん。木工の職業訓練校を卒業後、2016年に吉野町に移住。



esora

シンプルで木の良さが伝わる木製玩具を製作する橋元さん。吉野町が行っている、赤ちゃんに木製玩具をプレゼントする「ファーストイ事業」にも携わっている。
 〒奈良県吉野郡吉野町大字上市150
 E-mail h.miho.88@gmail.com
 HP <http://miho88.web.fc2.com>

Wooden toys
 @Yoshinocho

子どもが初めて触れるおもちゃを吉野材で作る。

吉野の杉や檜の手触り温かさを感じる木製玩具。教育玩具や育児用品の輸入販売の仕事をしてきた橋元さん。海外製のおもちゃに触れるうち、日本製の乳幼児用のおもちゃには、能動的に遊んだり学べるものが少ないと感じていたそう。「子どもの発達にあわせてたおもちゃを作りたい」と橋元さんが素材に選んだのは「吉野の木」。大切に育てられた吉野材は触るほどに愛着が湧きます、と橋元さん。自身が思い描く世界を確立すべく、日々新たな商品づくりに励んでいる。

Q 作品を作っている中で感じている事はどんな事ですか？
A 自分でデザインして、いき作ってみると色々問題が出てきたり、加工している中で別々のアイデアが出てきたりして面白いです。

Q 手がけられたお仕事で、手ごたえを感じたものはどんなお仕事ですか？
A 食材の形をしている「たべものひもとおし」です。指先を使っひもを通して遊ぶのですが、おままごとにも使えて楽しいですよ。



Woodworks & Furniture
 @Kawakamimura

木々の個性、自然のリズムが伝わる器。



わたなべたかし 渡邊崇さん

堺市出身の渡邊さん。都会と成り立ちが全く異なる川上村での暮らしに、根源的に欠けていたものが満たされていると感じているそう。



①ろくろのように器を回転させる旋盤(せんばん)を使用して、器の形を削り出していく ②削りたての器。天然オイルや草木染など自然の素材で仕上げている

Q 作品についてこだわりや、大切にしていることを教えてください。
A オーダーがあった場合には、求められた形や制限のある中で職人的な製作もしますが、素材の特徴を活かし、画一的なデザインや仕上がりにはならないようにこだわっています。

Q 手がけられたお仕事で、手ごたえを感じたものはどんなお仕事ですか？
A フランス料理店の器の仕事ですね。自身の作品の雰囲気と求められた大きさや形状、仕上げなど、お互いの個性をぶつけ合い、イメージを共有してよりよい形に出来ました。

木目や節を活かした1点1点異なる食器。「木のある暮らしや空間に関心がありました」と語る木工職人の渡邊さん。大阪での木工所勤務、飛騨高山での木工修業を経て工房「MoonRounds」を川上村に開業したのは2018年1月のこと。工房2階のギャラリーに展示された作品は、杉や檜のほか、風倒木や扱い難い雑木など多様な樹木を使った個性的なものばかり。木の生きた痕跡を残すことで個性や表情を表現しているそう。ひとつひとつの素材と真摯に向き合う日々だ。

傷や欠けも作品の個性。ひとつひとつにストーリーを感じる器たち

02

Living with Woods.



ギャラリーには家具の展示も。今後は家具づくりにも取り組んでいくそう

MoonRounds

工房は、木材倉庫を自身でリノベーション。ギャラリーでは、木の持っている生命力が感じられる作品が並ぶ。

〒奈良県吉野郡川上村東川1179

☎080-2657-4526

HP <https://www.instagram.com/moonrounds/>



インドネシアで開催された「Into The Woods展」にも展示された一輪挿し

心魅かれたものを、「かたち」にする喜び。

Figurative art
@Higashi
yoshinomura



造形作家 三瓶祐治

古びたものが醸し出す味わいや空気感、佇み寂びが表現された三瓶さんの作品は、静かだが雄弁な存在感を放っている。

〒奈良県吉野郡東吉野村
HP <http://tabikumasya.com>



①東吉野村にある雑貨店「空木(うつぎ)」で2018年に開催された個展の様子 ②木彫りの像を製作中の三瓶さん。自宅の土間が作業スペース ③自宅には、村や浜辺を歩きながら出会った流木や古い道具などがいっぱい



どこか寂し気な白熊。小さい頃から心魅かれるモチーフだったそう

hamade stained glass

様々な技法を組み合わせる作るステンドグラス。金森さんが作り出す作品は暮らしの中にふと華やきをもたらしてくれる。

〒奈良県宇陀市大宇陀拾生2314
☎090-8383-8008

HP <https://www.facebook.com/hamade.sg/>



- Q** 手がけられたお仕事で、手こたえを感じたものはどんなお仕事ですか？
- A** どの仕事も思い出深いのですが…。印象に残っているのは小学校時代からの親友の自宅のステンドグラスを製作した時ですね。持っている知識や技術、感覚を全て詰め込みました。
- Q** お仕事で大切にしていることはどんなことですか？
- A** イベントやオーダーの時には購入してくれた方に作品の説明や込めた想いを伝えています。あわせてガラスに関する豆知識などもお伝えすると喜んでくれます。

幼き日からの夢を叶える キラキラに囲まれた暮らし。

Stained glass
@Udashi

古い町並の古民家にて、ステンドグラスを作る日々。「物心がついたころから作ることが好きで、ガラス細工を集めていました」と語る金森さん。短期大学でステンドグラスの技法を学んだ後、母校で助手として勤務。その後、2012年から作家活動をスタートさせた。名古屋の工房での修業や東京暮らしを経て、副手時代によく訪れていた宇陀市に移住したのは2015年のこと。昔ながらの風情が残る大宇陀松山の古民家で、ステンドグラスの工房兼教室を営みながら充実した日々を過ごしている。

03

Handmade,
Art work.

色とりどりの美しいガラスはアメリカやドイツ製のものが多く



金森恵莉果さん

名古屋や東京で暮らした金森さん。大宇陀松山地域の人たちとの触れ合いやちょうどよい距離感に優しさを感じ、心地よく過ごしているそう。



①カッターでガラスを切りだし、周囲に銅テープを張り付ける
②ガラスを窯で焼くフュージングのアクセサリーなども製作
③銅テープを巻いたガラスをはんだ付けで接着していく



穏やかな村時間から得る創作のインスピレーション。
造形作家の三瓶さんが、東京から東吉野村に移住したのは2016年のこと。移住後もMPOデザイナーとして東京の会社に籍を置きながら、並行して作家活動をスタートさせた。村での暮らしにも慣れた現在では、作家活動に専念しているそう。木彫りやテラコッタ、石膏のほか、村内を散策して出会った漂流物や古いものなど、さまざまな素材を使い、心の赴くまま作品を生み出す毎日だ。

Q 造形をはじめたきっかけがあれば教えてください。

A もともと凄く収集癖があって、フィギュアをコンプリートしたり気になるものを集めていたのですが、ある時集めることに興味を無くして、ほぼ手放したことがあったんです。そこから徐々に自分で何かを創造していくことの方へ意識が向いていったんだと思います。

Q 手がけられたお仕事で、手こたえを感じたものはどんなお仕事ですか？

A まだまだ模索する毎日ですね。日々精進していければと思っています。



三瓶祐治さん

東吉野の澄んだ空気に魅かれて移住した三瓶さん。創作活動のない日には、奥様が営むオーガニックカフェでお店の手伝いをするそうです。



①自宅でお酒を飲んでいる時に会話が盛り上がって欲しい、という思いで作られた「鳥酒器」②自宅兼工房には製作中の作品がいくつも③デザイナーの真由さん。子育てと自宅での仕事を両立

陶芸家 山本雅彦

「いずれは陶芸家という枠もとっばらいたい」と山本さん。型に縛られない自由な発想で作られた作品は、見る人の心に翼を授けてくれる。

〒奈良県宇陀郡曾爾村山粕
1307 ☎0745-88-9521
E-mail
masayama.mym@gmail.com



山本雅彦さん、真由さん
小学校からの幼馴染というご夫妻。自然の中で子育てできる場所と、新しい薪窯を作れる場所を探して2017年に曾爾村に移住した。

Ceramics
@Sonimura

歩んできた道が作る 自分だけのスタイル。

双方向に影響を与え合う
職人仕事と創作活動。

「求められる事には当たり前に応え、芸術の事は自分に従っています」と語る陶芸家の山本さん。幼い頃から目にしてきた陶芸家の父の自由な発想と、修業時代に体で覚えた職人仕事。どちらも大切にしたい自分だけのスタイルを確立していきたいと、静かに土と向き合う日々だ。

奈良県産の材料にこだわり1枚1枚手作業で作る「葉の器-LEAFPLATE-」など、漆の工芸品を製作



Lacquer ware
@Sonimura

ゼロから始める 「漆部の郷」の 復活プロジェクト。

導かれるように訪れた
村で出会った漆の源流。

曾爾村で漆の植栽や生育管理を行う「漆ぬるべ会」とともに漆プロジェクトのコーディネーターを務める並木さん。もともと漆に興味があり、この素材がどこから来ているのだろうと疑問に思っていたそう。偶然見つけた記事で会の活動を知り、好奇心の赴くままに村を訪れた。漆の森を育てるところから始めるプロジェクトのコンセプトに共感、初訪問の2か月後に移住を果した。現在は植林や採取、漆の特産品づくりなど多忙な毎日を送っている。

⑥ぬるべの郷プロジェクトではどんな取り組みを行っているのですか？

⑤曾爾村は平安時代以前から「漆部郷(ぬるべのさと)」と呼ばれていました。いつしか廃れてしまった漆文化を復活させるため、10年以上前から漆の植栽活動を行い、村産の漆を使った製品づくりなどに取り組んでいます。

④手がけられたお仕事で、手ごたえを感じたものはどんなお仕事ですか？

③ここへ来て初めて漆掻き(漆の木に傷をつけて樹液を採取すること)を経験したことです。実際に体験して初めて、漆は自然の恵みで、遥か昔から人々の生活に寄り添ってきた貴重な素材であることを実感しました。

04 Traditional crafts.

「一文字」に貫く 刀工という生き方。

Swordsmith
@yamazoemura

憧れの師匠のもとで
腕と刀を磨く日々。

現代の名工・河内國平氏の著書に感銘を受け、刀工を志した金田さん。高校卒業後は河内氏に弟子入りし、2014年に「美術刀剣制作承認」と、師匠から「國真」の刀工銘を授かった。今も師匠のもとに通いながら、理想の一振り完成を目指し日々研鑽を続けている。



金田達吉さん

山の中腹のどかな風景の中で暮らす金田さん。今年中には山添村に自分の工房を構え、正式に刀工として独立を果たす予定だ。



刀工 金田國真

華やかな丁子の刃文が美しい金田さんの作品。備前伝という流派の中でも鎌倉時代の「一文字」という派の作風を狙って作刀している。

〒奈良県山辺郡山添村峰寺65 ☎090-7108-9992
HP <https://www.facebook.com/people/金田國真/100009535422960>

①「自分の納得いくものだけを世の中に出したい」と鋭い眼差しで刀を見つめる金田さん。②砥ぎの最中に何度も刀のゆがみが無いか確かめる。③茎(なかご)には作刀者の銘が刻まれる。④自宅にある研ぎ場に、リスミカルに刀を研ぐ音が響く



①工房の隣にあるスペース。いずれはコワーキングなどでもできるようにする予定。②紅葉時期に下市町や曾爾村周辺で採取した柿の葉に和紙を張り、村産の漆を塗って仕上げる。③並木さんが製作した漆の螺鈿の箱。落ち着いた漆の黒が美しい



「Urushi Base Soni NENRIN (ねんりん舎) / ぬるべの郷 漆工房」

漆に関する情報発信やワークショップが開催できる文化交流拠点。隣接の「ぬるべの郷 漆工房」では曾爾村産の漆を使った工芸品を製作。
〒奈良県宇陀郡曾爾村大字塩井605
☎0745-88-9483
HP <http://soni-agriforestry.jp/urushi.html>

並木美佳さん

埼玉から移住した並木さん。新鮮な野菜が手に入る村の生活で食生活が豊かになり、田畑で働く人々への感謝の気持ちが強くなったそう。

**奥大和ビール
タップルーム**
約20種類のハーブを厳選しブレンドしたクラフトビール「奥大和ビール」が味わえる店。地元の果物や特産物を活かした季節限定のビールも。
〒奈良県宇陀市大宇陀 拾生672-1
☎0745-88-9001

人と人をつなぐ、
こだわりのビール。

Craft beer
@Udashi

HP <http://okuyamato-beer.jp>



よねだよしのり
米田義則さん
Uターンし地元で起業した米田さん。今後はタップルームでの醸造免許取得や「泊まれるブルワリー」への改装などさらなる展開を計画 중이다。

①2018年11月にオープン。巨大な一枚板のカウンターが存在感を放つ ②原料の魅力を引き出し苦労して作ったビールをサーブ ③定番三種類が味わえるセット。イチオシはスパイスやオレンジピールが入った琥珀色の「ハーバルエール」 ④支払いにチケット替わりのオシャレな木札で

05



Gathering space.

Fountain pen & Cafe
@Goseshi

モリソン万年筆 & カフェ
大正7年創業の「モリソン万年筆」。その本店跡を「ごせまち観光の拠点にしたい」と改装し、2016年にオープンした町家カフェ&和風バー。
〒奈良県御所市西町1069
☎0745-63-1881



①昼は本格カレーや和風イタリアン、夜はバースタイルでスキレット料理を提供 ②店内では他社製の輸入万年筆やオリジナルのボールペンなどの販売も ③時代の流れに押され現在は生産を行っていないが、貴重なデッドストックを展示



町家のカフェ&バーを
ごせまちのランドマークに。



たにがわたけの
谷川岳彦さん
四代目当主の谷川さん。出身地であるごせまちの活性化とともに、歴史あるモリソン万年筆をいつか復活させたいと様々な活動を続けている。

HP <http://www.morisonfactory.co.jp>

Ceramics
@Kawakamimura

暮らしの中に
そっと寄り添う
優しい食器。

二人の陶芸家が見つけた
今ここにある大切なもの。
鈴木さんご夫妻が川上村匠の聚(たくみのむら)に陶房を開設したのは1999年のこと。信楽から移住して20年、夫婦でそれぞれの作品を作る日々だ。二人が共に大切にしているのは「使う」ということ。焼きあがった器は実際に使用し改良を繰り返す。「仕事が終われば近所の仲間を呼んで、食事を楽しんでいます」とご主人。緩やかな時間が流れる村での暮らしのリズムが、二人の作品にも色濃く映し出されている。

Q 作品づくりでこだわっていること、大切にしていることを教えてください。
A それぞれの食卓に必要な器として日々使ってもらえる器を作ることです。食卓に集う人達が、料理ばかりではなく器を使うことが楽しみの一つになればと願い、イメージを膨らませデザインを考えています。
Q 手がけられたお仕事で、手ごたえを感じたものはどんなお仕事ですか？
A これはどの器でも同じですが、実際に使っていた方に製作した器が伝わり、嬉しい評価を頂けた時に手応えを感じます。

ご主人は瀬戸、奥様は信楽の土を使うなど、ご夫妻それぞれの個性が反映されている器たち



04

Traditional crafts.



①ろくろを回しながら細かい造形を削り出していく ②顔料を混ぜた色化粘土で色をつけて焼くが、焼き上がりは全く異なる色になる ③800℃ほどの温度で素焼きした白い食器



いまま陶房
ご主人作の「やさしい器シリーズ」はスプーンですぐに手添えやすいユニバーサルデザイン。老若男女だれでも使えると評判だ。
〒奈良県吉野郡川上村東川135(匠の聚内)
☎0746-53-2660
HP <http://www5.kcn.ne.jp/~inima/>



すずきゆういちろう きさこ
鈴木雄一郎さん、智子さん
都会育ちのご夫妻。町よりも近い人々との距離に安心を感じるそう。今の生業と暮らしの全てを自分の人生と思いい、大切に過ごしている。